

# 海を照らす灯台のなかまたち

## ～天巖鼻灯台（てんぎはなとうだい）～

天巖鼻灯台は、宿毛湾から久良湾や深浦湾（深浦漁港）へ航行するための指標として、1949年（昭和24年）10月に東外海町（現在の愛南町）が設置しました。



設置当初は木造櫓形でしたが、1952年（昭和27年）、海上保安庁へ移管され、1953年（昭和28年）にはコンクリート造に改築されています。



【1960年（昭和35年）頃の天巖鼻灯台】

1970年（昭和45年）、管制器室屋根上にLE60型灯器（投光器）を設置して、天巖鼻白石照射灯を併設しました。



【照射灯用灯器（1970年頃）】



照射灯は、暗礁や岩、防波堤の先端などを強い光で照らして、船舶に危険な場所を知らせる航路標識です。



【白石の岩（副標）を照射灯が照らす】

1988年（昭和63年）、老朽化した灯塔が建替えられ、現在の姿となりました。



【2023年（令和5年）、地元イベントに合わせて施設公開】



【記念額】



【灯台内部に保存されている旧記念額】

灯台のすぐ近くが、県道297号線の起点となっていますが、久良の集落までは道路幅が狭く曲がりくねっていて、対向車が来ると離合も困難ですので、走行する際は注意が必要です。



【灯台近くにある路線番号標識】

県道を、起点から600メートルほど行くと、久良天巖鼻砲台場跡があり、この砲台を設計したのが、江戸時代後期の医者・蘭学者である高野長英です。

高野長英は、1839年（天保10年）、幕政批判で捕らえられて獄に入った後、1844年（弘化元年）に牢屋敷の火災に乗じて脱獄、二宮敬作（伊予国宇和郡出身、シーボルトの娘（楠本イネ）の養育で有名な医者・蘭学者）の案内で伊予宇和島藩・伊達宗城に庇護されます。

余談ですが、漫画家・松本零士さんの代表作である宇宙戦艦ヤマトや銀河鉄道999のヒロイン、スターシャやメーテルは、とても美しい容貌だったシーボルトの孫（楠本高子）がモデルであるといわれています。

高野長英に話を戻すと、宇和島藩に匿われていた頃の隠れ家が、西予市卯之町に今も残っているそうです。

伊達宗城の下で、兵法書などの蘭学書翻訳や砲台適地の調査、砲台図面の作成に従事して、南予地方の海岸防備のための4つの砲台

設置（うち1つは未完成）に大きく寄与し、特に久良天巖鼻砲台は、当時の最高技術を結集したものとされています。

#### ○天巖鼻灯台要項

所在地 愛媛県南宇和郡愛南町（天巖鼻）

塗色・構造 白色、塔形（コンクリート造）

灯 質 単明暗白光 明6秒暗2秒

光達距離 12.5海里（約23.2km）

高 さ 地上から構造物の頂部まで 7.54m

平均水面上から灯火まで 73.00m

地上から灯火まで 7.29m

天巖鼻白石照射灯を併設